

授産施設でもみ殻くん炭を製造 [北海道・平取町]

情報収集官署名：北海道統計・情報事務所 静内統計・情報センター
☎ 01464-2-0519

[取組主体]

名 称 社会福祉法人 平取福祉会 すずらん福祉園
取組の範囲 沙流郡平取町
開 始 年 度 昭和 63 年度
[補助事業] 無

1 取組目的と概要

(目的)

稻作農家の未利用もみ殻を利用して、くん炭を製造し、生産資材として地域農業に還元することにより資源の有効利用を図る。



< -くん炭の拡大画像 - >

(概要)

平取町のすずらん福祉園では、周辺の米生産農家が廃棄に苦慮していたもみ殻に着目し、昭和 63 年度から未利用のもみ殻を利用してくん炭を製造し、生産資材として近隣の野菜生産農家等へ販売している。

同園内の施設では、入所者がもみ殻くん炭の製造作業を行い、300 ℃ の高温で 12 時間ほどかけてくん煙製造している。

くん炭は、生物由来の肥料として成分的にも優れているほか、高温殺菌された炭素分が豊富なことから土壤改良剤としても有効であり、さらに融雪剤としての利用も見込める。

取組開始当初は、施設内の農地利用で余ったくん炭を一般消費者に販売する程度であったが、徐々に需要が高まり、近年は近隣の施設園芸農家を中心に育苗用資材として活用されているほか、一般家庭においても家庭菜園や花壇にも利用されている。

販売価格は、100 ℥当たり 1,200 円で、同園のほか、JA 平取町、日高地区農業改良普及センターでも申し込むことができ、1リットルから受付けている。

2 取組の効果

(効果)

くん炭の効果が徐々に周知されるようになり、周辺地域の施設園芸農家から大量に注文がくるなど、資源の有効利活用を図ることができた。

3 現在の課題と今後の展開方向

(課題)

製造当初は原料のもみ殻を無償で確保できたが、近年では有償となり、販売価格に反映せざるを得ないことや、米の生産調整により、近隣の農家からのもみ殻自体の確保が困難になってきている。

(展開方向)

農業関係者へくん炭の成分や効果をさらに広く PR することにより、くん炭の普及に努め、原料もみ殻の安定確保と製品の販路拡大を検討している。

「授産施設でもみ殻くん炭を製造」の施設概要

施設名称	社会福祉法人 平取福祉会 すずらん福祉園	設置主体	社会福祉法人 平取福祉会 すずらん福祉園
運営主体	社会福祉法人 平取福祉会 すずらん福祉園	施設整備費	-
主な設備	もみがら貯蔵庫 くん炭製造器（5基） 製品保管庫 等	稼働状況	冬期間で不定期（11月から原料が無くなるまで）

【施設のシステムフロー】



原料のもみ殼（穂別町の農家から購入）



くん炭製造器（一回に5袋分のもみ殼を入れることができる）



くん炭製造器（もみ殼を入れた後、棒でかき混ぜながら、もみ殼に直接灯油を噴霧し、12時間かけて蒸し焼きにする）



くん炭の拡大写真

バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発生源	距離	発生量	収集・運搬方法	施設処理能力
もみ殼	米生産農家	50km	315m ³	2トントラック	200ℓ/日
再生バイオマス名	生産量	再生バイオマスの利活用先			
もみ殼くん炭	150ℓ/日	生産資材（野菜生産農家等へ販売）			